

平成24年度北陸地区国立大学学術研究連携支援報告書

研究グループ名	大学組織力向上のための共創プログラム開発研究 (支援期間：平成23年度～平成24年度)			
大学名	所属		氏名	
金沢大学	大学教育開発・支援センター		○西山 宣昭 青野 透	
富山大学	大学教育支援センター		○佐藤 裕 橋本 勝	
福井大学	高等教育推進センター		○寺岡 英男 田村 信介	
北陸先端科学技術大学院大学	大学院教育イニシアティブセンター		○浅野 哲夫 林 透	
※ 各大学の研究グループ責任者の氏名には○印。				
その他の機関 の 構 成 員	機 関 名	所 属	職 名	氏 名
成果概要	<p>平成23～24年度にかけて、大学組織力向上のための共創プログラムの開発に向けた取組を進めてきた。平成23年度には、教員と職員による共創を目指して、大学が関わる幅広い事象のうち、教員と職員が共に営むことが多く、本プロジェクトメンバーとの関係性の高い「教育企画、教務・学生支援」に焦点を当て、アクションリサーチの方法を適用して調査研究に取り組んだ。平成24年度には、教員・職員・学生による共創へと発展させ、知識創造技法を活用したグループワークを行い、大学教育において育成すべき人材像について理解を深める場を提供することに成功した。この2年間の取組は、各大学の教員・職員・学生がチームを形成し、かつ、地域の4大学が組織を超えてチームを形成するに至った。このような実績を通して、共創の定義を「①教員・職員・学生が、協働という形式を超えて、共に大学教育を創り上げるということ」、「②大学間連携により、個々の組織文化を超えて、大学教育に関する共通の課題について考え、課題解決や新たな方向性を見出していくこと」とした。</p> <p>近年、共創というコンセプトは、全国各地で取り上げられるようになり、高等教育界においても京都産業大学の「燦 presents『京産共創』プロジェクト」や大学マネジメント研究会（会長：本間政雄 梅光学院理事長（元 京都大学理事・副学長））の「共創工房」などの取組が盛んとなっており、本研究グループによる取組が果たした社会的貢献は大きい。大学を取り巻く環境が多様化、高度化する中で、職域を超えて対話し、創造する柔軟性や積極性が求められている表れであろう。</p> <p>平成23～24年度の活動内容は、『大学共創プロジェクト2011 報告書』『大学共創プロジェクト2012 報告書』にまとめられたほか、Between 2013年4-5月号にて、林 透「大学共創プロジェクトの軌跡 ～大学間連携による人材育成・能力開発の試み～」が掲載された。</p>			
獲得した外部 資金	<p>● 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）・基盤研究（C）「日本の大学における組織開発（OD）に関する実証的研究」（代表者：林 透（平成23～25年度））</p>			

